

SCB

SHINKIN
CENTRAL
BANK

金融調査情報

26-3

(2014. 10. 22)



信金中央金庫

SCB

地域・中小企業研究所

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7

TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048

URL <http://www.scbri.jp>

2014 年度上期中の全国信用金庫主要勘定増減状況（速報）

－預金、貸出金ともに前年度上期を上回る伸び－

要旨

- 全国信用金庫の預金残高（除く譲渡性預金）は、2014 年 9 月末に 131 兆 2,556 億円と、14 年度上期中に 3 兆 1,954 億円増加した。科目別にみると、要求払預金が同 1 兆 5,724 億円、定期性預金が同 1 兆 7,877 億円増加した。
- 貸出金残高は、14 年 9 月末に 64 兆 9,748 億円と、上期中に 4,956 億円増加した。科目別にみると、割引手形および手形貸付は減少が続いているものの、貸出金全体の 9 割弱を占める証書貸付が増加傾向を維持している。
- 預貸率は、14 年 9 月末に 49.5%となり、14 年 3 月末から 0.8 ポイント低下した。
- 余資運用資産残高は、14 年 9 月末に 74 兆 2,710 億円と、上期中に 2 兆 4,441 億円増加した。内訳をみると、預け金が同 2 兆 552 億円、有価証券が同 4,116 億円増加した。
- 店舗数は、14 年 9 月末に 7,435 店舗と、上期中に 16 店舗減少した。また、常勤役員数は 9 月末に 11 万 5,063 人と上期中 2,538 人増加し、会員数は 9 月末に 927 万 6,165 と同 6,533 減少した。

（図表 1）預金・貸出金・余資運用資産増減状況

（単位：億円、%）

年月末	預 金 計			貸 出 金 計			余 資 運 用 資 産 計			預貸率
	年度初来 増減額	前年同月比 増減率		年度初来 増減額	前年同月比 増減率		年度初来 増減額	前年同月比 増減率		
2010. 3	1,173,806	19,275	1.6	641,574	△ 7,211	△ 1.1	595,768	32,898	5.8	54.6
9	1,195,743	21,936	1.8	637,069	△ 4,505	△ 1.1	622,748	26,980	5.1	53.2
2011. 3	1,197,465	23,658	2.0	637,550	△ 4,024	△ 0.6	625,003	29,235	4.9	53.2
9	1,223,773	26,308	2.3	635,665	△ 1,885	△ 0.2	653,078	28,074	4.8	51.9
2012. 3	1,225,884	28,419	2.3	637,888	337	0.0	658,798	33,795	5.4	52.0
9	1,250,281	24,397	2.1	635,222	△ 2,666	△ 0.0	683,329	24,530	4.6	50.8
2013. 3	1,248,763	22,878	1.8	636,876	△ 1,012	△ 0.1	689,163	30,365	4.6	51.0
9	1,278,023	29,260	2.2	636,973	97	0.2	712,359	23,195	4.2	49.8
2014. 3	1,280,602	31,839	2.5	644,791	7,915	1.2	718,269	29,105	4.2	50.3
9	1,312,556	31,954	2.7	649,748	4,956	2.0	742,710	24,441	4.2	49.5

（備考） 1. 預貸率＝貸出金／預金×100

2. 余資運用資産計は、現金、預け金、買入手形、コールローン、買現先勘定、債券貸借取引支払保証金、買入金銭債権、金銭の信託、商品有価証券、有価証券の合計

※本稿における計数は、速報ベースであるため、今後修正される可能性がある。

なお、地区別統計における地区のうち、関東には山梨、長野、新潟を含む。東海は静岡、愛知、岐阜、三重の 4 県、九州北部は福岡、佐賀、長崎の 3 県、南九州は熊本、大分、宮崎、鹿児島県の 4 県である。沖縄県は全国に含む。

目次

1. 預金 ～ 要求払預金の伸び率は依然高く、定期性預金の伸び率も上昇基調
2. 貸出金 ～ 科目別は証書貸付、地区別は東海、東京、近畿主導で増加
3. 余資運用資産 ～ 預け金を中心に、投資信託など有価証券も増加
4. 店舗数、常勤役員数、会員数 ～ 店舗数と会員数の微減継続

1. 預金 ～ 要求払預金の伸び率は依然高く、定期性預金の伸び率も上昇基調

全国信用金庫の預金残高（除く譲渡性預金）は、2014年9月末に131兆2,556億円と、上期中に3兆1,954億円増加した（図表2）。増加額は、前年度上期中（2兆9,260億円増）を上回った。

科目別にみると、要求払預金は、14年9月末に47兆4,849億円と、上期中に1兆5,724億円増加したが、増加額は前年度上期中（1兆6,661億円増）を下回った。一方、定期性預金は14年9月末に83兆5,387億円と、上期中に1兆7,877億円増加し、増加額も前年度上期中（1兆4,524億円増）を上回った。

前年同月比増減率の推移をみると、要求払預金は13年6月以降、4%超の高い伸び率で推移している。要求払預金と定期性預金との金利水準の差が小さいなかで、年金資金や法人預金などが要求払預金に滞留していることなどが背景にある。

（図表2）預金増減状況

（単位：億円、%）

年月末	月末残高							年度初来増減額			前年同月比増減率		
	預金計							預金計			預金計		
	要求払	普通預金	定期性		定期預金	定期積金	外貨預金等	要求払	定期性		要求払	定期性	
2013. 3	1,248,763	437,668	389,415	806,621	756,815	49,806	4,472	22,878	14,961	8,033	1.8	3.5	1.0
9	1,278,023	454,329	404,544	821,146	771,801	49,344	2,547	29,260	16,661	14,524	2.2	4.3	1.1
10	1,276,569	455,975	411,221	818,213	768,763	49,450	2,380	27,805	18,306	11,591	2.3	4.8	1.1
11	1,276,149	454,642	410,204	819,203	770,096	49,107	2,302	27,385	16,973	12,582	2.6	5.4	1.1
12	1,291,363	465,786	417,903	823,239	774,817	48,421	2,337	42,600	28,118	16,617	2.4	5.0	1.1
2014. 1	1,278,479	451,838	407,648	824,275	775,047	49,227	2,366	29,716	14,169	17,653	2.4	4.7	1.3
2	1,283,705	460,023	413,360	821,459	771,730	49,729	2,222	34,942	22,355	14,837	2.4	4.8	1.2
3	1,280,602	459,125	407,904	817,509	767,879	49,629	3,967	31,839	21,456	10,887	2.5	4.9	1.3
4	1,295,628	472,361	421,942	821,105	771,617	49,487	2,161	15,026	13,236	3,595	2.5	4.9	1.3
5	1,291,994	465,807	420,265	824,069	775,015	49,053	2,117	11,392	6,682	6,559	2.7	5.2	1.4
6	1,306,075	473,153	424,301	830,716	781,884	48,831	2,205	25,473	14,028	13,206	2.5	4.2	1.6
7	1,301,945	464,606	417,798	835,188	786,682	48,505	2,151	21,343	5,480	17,678	2.6	4.5	1.7
8	1,309,845	471,119	426,437	836,248	787,503	48,745	2,476	29,243	11,994	18,739	2.8	4.8	1.7
9	1,312,556	474,849	424,020	835,387	786,332	49,055	2,320	31,954	15,724	17,877	2.7	4.5	1.7

地区別にみると、14年度上期中は、全ての地区で預金残高が増加した（図表3）。特に九州北部では、上期中増減率が4.3%増と、全11地区中最高の伸びを示し、科目別でも、要求払預金が同4.6%増、高金利での預金キャンペーンなどから定期性預金が同4.1%増と、ともに高い伸びとなった。

(図表3) 地区別預金増減状況

(単位: 億円、%)

地区	2014年9月末残高						2014年度上期中増減率						(参考) 前年同月 比増減率
	預金計						預金計						
	要求払	うち普通	定期性	うち定期	うち定積		要求払	うち普通	定期性	うち定期	うち定積		
北海道	68,855	26,837	23,950	42,017	39,829	2,188	1.9	1.8	2.9	2.0	2.1	0.3	0.9
東京都	51,345	21,451	20,001	29,893	27,712	2,180	3.5	4.8	5.3	2.6	2.8	0.8	3.5
関東	235,415	83,460	74,745	151,523	141,102	10,421	2.0	2.8	2.9	1.6	1.9	△ 2.6	1.9
北陸	246,166	98,655	90,920	147,394	139,326	8,068	2.5	3.4	3.6	1.8	1.9	△ 0.3	2.5
北海道	36,547	10,661	9,518	25,884	23,910	1,973	1.5	1.5	1.3	1.4	1.6	0.1	1.1
東海	272,717	97,197	85,134	175,146	163,197	11,949	3.0	2.5	2.8	3.3	3.6	△ 0.2	4.3
近畿	266,341	88,650	75,660	176,381	168,863	7,517	2.4	5.3	7.0	1.9	2.1	△ 2.0	2.7
中国	58,055	23,401	21,151	34,580	32,842	1,737	2.1	3.2	4.0	1.3	1.6	△ 4.2	1.5
四国	26,494	5,960	5,577	20,530	19,579	951	1.7	2.8	3.8	1.3	1.4	△ 0.0	2.5
九州北部	22,059	8,639	7,991	13,414	12,574	839	4.3	4.6	4.9	4.1	4.4	△ 0.2	2.4
南九州	26,921	9,345	8,804	17,572	16,396	1,176	2.0	1.2	1.4	2.4	2.8	△ 2.2	2.2
合計	1,312,556	474,849	424,020	835,387	786,332	49,055	2.4	3.4	3.9	2.1	2.4	△ 1.1	2.7

(備考) 沖縄は合計に含む。

2. 貸出金 ~ 科目別は証書貸付、地区別は東海、東京、近畿主導で増加

全国信用金庫の貸出金残高は、2014年9月末に64兆9,748億円と2014年度上期中に4,956億円増加した(図表4)。

その内訳を科目別にみると、14年度上期中は、割引手形および手形貸付は減少基調にあるものの、貸出金全体の9割弱を占める証書貸付が増加基調を維持した。その結果、上期中の増加額は、前年度上期中(97億円増)を大幅に上回った。

前年同月比増減率の推移をみると、証書貸付、当座貸越ともに増減率は上昇傾向にあり、14年9月末は2%台となっている。

(図表4) 貸出金増減状況

(単位: 億円、%)

年月末	月末残高					年度初来増減額					前年同月比増減率				
	貸出金計					貸出金計					貸出金計				
	割引手形	手形貸付	証書貸付	当座貸越		割引手形	手形貸付	証書貸付	当座貸越		割引手形	手形貸付	証書貸付	当座貸越	
2013. 3	636,876	10,612	40,848	558,683	26,731	△ 1,012	△ 860	△ 2,078	2,160	△ 233	△ 0.1	△ 7.5	△ 4.8	0.3	△ 0.8
9	636,973	8,838	39,480	561,238	27,416	97	△ 1,774	△ 1,367	2,554	684	0.2	△ 16.7	△ 3.2	0.8	0.8
10	634,326	8,705	38,950	561,141	25,529	△ 2,549	△ 1,907	△ 1,897	2,458	△ 1,202	0.8	△ 6.3	△ 2.8	1.3	△ 0.6
11	636,914	9,744	39,137	562,517	25,514	37	△ 868	△ 1,710	3,834	△ 1,217	1.2	5.1	△ 2.6	1.5	△ 1.2
12	643,203	10,475	40,521	565,532	26,674	6,327	△ 137	△ 327	6,848	△ 57	1.3	△ 4.5	△ 2.6	1.7	△ 0.1
2014. 1	637,460	9,244	39,532	562,933	25,749	584	△ 1,368	△ 1,315	4,250	△ 982	1.4	△ 3.5	△ 2.6	1.9	0.0
2	637,361	9,045	39,505	562,943	25,866	484	△ 1,567	△ 1,343	4,259	△ 864	1.5	△ 2.3	△ 2.5	1.9	0.6
3	644,791	9,344	39,876	568,343	27,227	7,915	△ 1,268	△ 971	9,660	495	1.2	△ 11.9	△ 2.3	1.7	1.8
4	639,726	8,876	37,302	568,100	25,446	△ 5,065	△ 467	△ 2,573	△ 242	△ 1,780	1.7	0.1	△ 3.1	2.0	1.3
5	642,409	9,891	36,063	571,222	25,232	△ 2,382	547	△ 3,813	2,878	△ 1,995	2.1	11.6	△ 3.1	2.4	0.5
6	642,032	8,844	36,127	571,469	25,591	△ 2,759	△ 500	△ 3,749	3,126	△ 1,635	1.6	△ 10.6	△ 3.6	2.1	2.6
7	642,908	8,736	36,412	572,058	25,700	△ 1,882	△ 607	△ 3,464	3,715	△ 1,526	1.9	△ 0.7	△ 3.6	2.3	1.7
8	644,686	9,576	36,682	572,816	25,610	△ 105	232	△ 3,194	4,472	△ 1,616	1.8	△ 0.9	△ 3.7	2.2	2.5
9	649,748	8,834	38,092	574,800	28,021	4,956	△ 509	△ 1,784	6,456	793	2.0	△ 0.0	△ 3.5	2.4	2.2

地区別にみると、14年度上期中は、北海道、北陸を除く全地区で貸出金残高が増加した(図表5)。特に、東海、東京、近畿の3地区は、この順に貸出金の増減率が1%台と高くなっており、証書貸付についても同様となっている。一方、北海道は、地公体向けの季節性による減少から増減率が全国で最低となっている。

(図表5) 地区別貸出金増減状況

(単位: 億円、%)

地区	2014年9月末残高					2014年度上期中増減率					預貸率		(参考)
	貸出金計					貸出金計					2014年9月末	2014年3月末	前年同月比増減率
	割引手形	手形貸付	証書貸付	当座貸越		割引手形	手形貸付	証書貸付	当座貸越				
北海道	29,754	342	2,556	24,977	1,877	△ 1.8	△ 3.1	△ 18.1	△ 0.3	6.0	43.2	44.8	0.6
東北	22,239	197	1,754	19,114	1,172	0.5	△ 4.4	0.9	0.3	4.9	43.3	44.6	2.0
東京	121,172	1,879	4,045	113,740	1,506	1.2	△ 7.2	△ 0.0	1.4	1.3	51.4	51.8	1.9
関東	119,495	1,423	7,909	105,981	4,180	0.2	△ 7.1	△ 4.7	0.6	3.7	48.5	49.6	1.3
北陸	16,346	214	1,408	13,870	852	△ 0.5	△ 9.1	△ 5.4	0.2	△ 2.9	44.7	45.6	△ 0.4
北東	136,209	1,759	9,527	114,613	10,309	1.4	0.3	△ 5.5	1.8	3.3	49.9	50.7	2.8
近畿	136,693	2,203	6,102	123,962	4,424	1.1	△ 5.2	0.1	1.3	1.0	51.3	51.9	2.7
中国	30,015	409	2,274	25,747	1,585	0.2	△ 10.6	△ 5.2	0.8	1.6	51.7	52.6	1.1
四国	10,070	103	849	8,369	747	0.2	△ 2.8	△ 2.5	0.5	0.5	38.0	38.5	△ 0.1
九州北部	11,887	155	684	10,556	492	0.3	△ 11.4	△ 1.9	0.5	5.4	53.8	56.0	2.0
南九州	14,795	144	924	12,926	799	0.6	△ 13.7	△ 4.3	0.8	6.7	54.9	55.7	2.4
合計	649,748	8,834	38,092	574,800	28,021	0.7	△ 5.4	△ 4.4	1.1	2.9	49.5	50.3	2.0

(備考) 1. 沖縄は合計に含む。

2. 預貸率=貸出金/預金×100

14年9月末の地区別の預貸率をみると、3月末と同様、北海道、東北、四国が低く、九州北部、南九州が高い。3月末比で見ると全地区で低下しているものの、九州北部、北海道、東北の順に低下幅が大きくなった。九州北部は預金の増加が、北海道は貸出金の減少が要因となっている。

3. 余資運用資産 ~ 預け金を中心に、投資信託など有価証券も増加

余資運用資産残高は、預貸率の低下を背景に14年9月末に74兆2,710億円と、上期中に2兆4,441億円増加した(図表6)。増加額は、前年度上期中(2兆3,195億円増)をわずかながら上回った。

(図表6) 余資運用資産増減状況

(単位: 億円、%)

年月末	余資運用資産計										その他	有価証券
	現金		預け金			信金中金		譲渡性		その他の		
	増減率	増減率	増減率	預け金	増減率	預け金	預け金	預け金	預け金	預け金		
2013. 3	689,163	4.6	14,501	△ 4.5	275,885	4.2	211,611	430	63,844	8,362	390,414	
9	712,359	4.2	14,008	0.6	304,340	6.9	233,142	575	70,623	7,593	386,416	
構成比	100.0		1.9		42.7		32.7		0.0	9.9	54.2	
上期中増減額	23,195		△ 493		28,455		21,531		145	6,779	△ 3,997	
2013. 10	713,322	4.0	12,743	0.9	306,816	8.0	237,899	725	68,191	9,014	384,748	
11	711,510	4.2	13,699	3.1	302,161	8.3	236,520	680	64,961	7,623	388,025	
12	721,390	3.9	15,703	10.9	305,121	7.2	237,192	630	67,299	8,731	391,833	
2014. 1	714,290	3.7	13,652	1.8	302,052	8.7	235,832	575	65,645	8,044	390,539	
2	719,527	3.5	12,726	1.8	308,193	8.9	236,655	540	70,998	7,740	390,866	
3	718,269	4.2	15,048	3.7	297,649	7.8	227,989	200	69,459	5,303	400,267	
4	729,799	3.8	13,969	0.3	313,870	6.6	242,876	370	70,623	6,523	395,435	
5	724,808	3.6	13,478	2.2	305,692	8.5	242,194	385	63,113	7,749	397,887	
6	739,229	3.6	13,148	△ 1.1	320,443	8.7	249,530	395	70,517	7,275	398,363	
7	734,327	3.8	13,436	△ 1.3	315,355	8.2	250,452	385	64,518	7,504	398,032	
8	742,834	4.4	13,443	△ 1.6	319,574	7.3	252,158	385	67,031	7,522	402,293	
9	742,710	4.2	13,915	△ 0.6	318,202	4.5	249,259	211	68,732	6,208	404,383	
構成比	100.0		1.8		42.8		33.5		0.0	9.2	54.4	
上期中増減額	24,441		△ 1,132		20,552		21,269		11	△ 727	904	

(備考) 1. 増減率は前年同月比

2. 「その他」は、買入手形、コールローン、買現先勘定、債券貸借取引支払保証金、買入金銭債権、金銭の信託、商品有価証券の合計

内訳をみると、預け金は、14年9月末に31兆8,202億円と、14年度上期中に2兆552億円増加した。有価証券は、14年9月末に40兆4,383億円と、上期中に4,116億円増加した。

有価証券の内訳についてみると、14年度上期中に国債は、2,687億円減少し、有価証券に占める割合は24.4%となった(図表7)。一方、社債は1,731億円増、地方債も同1,414億円増となり、有価証券に占める割合はそれぞれ、41.7%、20.2%となった。増加ぶりが目立ったのは投資信託であり、14年度上期中に2,842億円増加し、有価証券に占める割合は2.8%となった。

(図表7) 有価証券増減状況

(単位：億円、%)

年月末	有価証券計										
	国債		地方債		社債			公社公団債	金融債	その他社債	
	増減率	増減率	増減率	増減率	増減率	増減率					
2013. 3	390,414	5.3	105,777	2.3	72,574	12.3	162,413	6.1	60,758	32,407	69,247
9	386,416	3.4	101,855	2.5	74,750	11.9	162,595	4.1	62,783	31,630	68,180
構成比	100.0		26.3		19.3		42.0		16.2	8.1	17.6
上期中増減額	△ 3,997		△ 3,921		2,176		181		2,024	△ 776	△ 1,066
2013. 10	384,748	1.7	98,636	△ 2.1	75,453	10.7	163,261	3.2	63,048	31,525	68,687
11	388,025	2.4	99,284	△ 0.8	76,403	11.7	164,544	3.3	63,999	31,608	68,935
12	391,833	2.4	101,600	△ 1.1	77,292	11.7	164,531	3.1	64,537	31,472	68,522
2014. 1	390,539	1.2	99,307	△ 5.0	77,569	10.6	164,426	2.3	64,837	31,383	68,205
2	390,866	1.0	98,126	△ 6.0	78,309	10.2	164,902	2.0	65,597	31,325	67,979
3	400,267	2.5	101,633	△ 3.9	80,324	10.6	167,223	2.9	67,465	31,391	68,366
4	395,435	2.8	99,019	△ 5.3	79,778	11.5	166,179	3.5	67,192	31,300	67,686
5	397,887	0.8	98,954	△ 11.3	80,001	10.0	167,404	3.1	68,486	31,214	67,703
6	398,363	0.6	98,505	△ 11.3	80,587	9.0	167,078	2.8	68,707	31,014	67,356
7	398,032	1.2	96,865	△ 9.8	80,773	8.8	167,170	2.1	68,957	31,093	67,119
8	402,293	3.0	98,230	△ 5.6	81,447	9.0	168,375	2.8	69,854	31,160	67,360
9	404,383	4.6	98,946	△ 2.8	81,739	9.3	168,954	3.9	70,302	31,111	67,541
構成比	100.0		24.4		20.2		41.7		17.3	7.6	16.7
上期中増減額	4,116		△ 2,687		1,414		1,731		2,836	△ 280	△ 824

年月末	株式		投資信託		外国証券	
	増減率	増減率	増減率	増減率	増減率	増減率
2013. 3	6,061	4.5	6,701	16.5	35,679	△ 3.7
9	5,274	△ 19.0	6,552	△ 2.5	34,194	△ 6.9
構成比	1.3		1.6		8.8	
上期中増減額	△ 787		△ 149		△ 1,484	
2013. 10	5,295	△ 13.8	6,801	△ 0.0	34,071	△ 7.6
11	5,226	△ 15.6	6,752	1.8	34,572	△ 6.3
12	5,225	△ 14.5	7,069	9.2	34,911	△ 5.0
2014. 1	5,312	△ 11.1	7,566	18.0	35,133	△ 4.2
2	5,399	△ 4.9	8,035	27.0	34,896	△ 3.9
3	6,374	5.1	8,770	30.8	34,853	△ 2.3
4	5,440	△ 0.4	9,078	55.0	34,718	△ 1.0
5	5,424	0.1	9,670	64.8	35,203	△ 0.0
6	5,348	△ 3.6	10,168	63.1	35,501	0.8
7	5,367	0.3	10,731	71.7	35,937	3.1
8	5,383	△ 0.2	11,326	74.4	36,363	5.2
9	5,338	1.2	11,613	77.2	36,718	7.3
構成比	1.3		2.8		9.0	
上期中増減額	△ 1,036		2,842		1,865	

(備考) 増減率は前年同月比

4. 店舗数、常勤役員数、会員数 ～ 店舗数と会員数の微減継続

店舗数は、14年9月末に7,435店舗と、上期中に16店舗減少した。また、常勤役員数は、14年9月末に11万5,063人と上期中に2,538人増加した。会員数については、9月末に927万6,165と上期中に6,533減少した（図表8）。

地区別にみると、店舗数は、14年度上期中、東京および九州北部において増加、四国で横ばいとなったが、残る8地区では減少した（図表9）。

また、常勤役員数は、14年度上期中、全ての地区で増加した。会員数は、2014年度上期中、東京、関東、北陸、近畿の4地区で減少したが、残る7地区では増加した。

（図表8）店舗数・常勤役員数・会員数増減状況

(単位：%)

年月末	金庫数	店舗数(店)		常勤役員数(人)		会員数				
		年度初来増減数	年度初来増減率	年度初来増減数	年度初来増減率	年度初来増減数	年度初来増減率			
2010.3	272	7,619	△ 52	△ 0.6	115,633	1,621	1.4	9,317,116	5,455	0.0
9	272	7,613	△ 6	△ 0.0	119,170	3,537	3.0	9,321,405	4,289	0.0
2011.3	271	7,584	△ 35	△ 0.4	115,960	327	0.2	9,318,325	1,209	0.0
9	271	7,578	△ 6	△ 0.0	118,666	2,706	2.3	9,324,040	5,715	0.0
2012.3	271	7,535	△ 49	△ 0.6	115,260	△ 700	△ 0.6	9,318,366	41	0.0
9	271	7,527	△ 8	△ 0.1	117,538	2,278	1.9	9,316,044	△ 2,322	△ 0.0
2013.3	270	7,504	△ 31	△ 0.4	113,800	△ 1,460	△ 1.2	9,305,143	△ 13,223	△ 0.1
9	270	7,491	△ 13	△ 0.1	116,201	2,401	2.1	9,289,894	△ 15,249	△ 0.1
2014.3	267	7,451	△ 53	△ 0.7	112,525	△ 1,275	△ 1.1	9,282,698	△ 22,445	△ 0.2
9	267	7,435	△ 16	△ 0.2	115,063	2,538	2.2	9,276,165	△ 6,533	△ 0.0

（図表9）地区別店舗数・常勤役員数・会員数増減状況（2014年9月末）

(単位：%)

地区	金庫数	店舗数(店)		常勤役員数(人)		会員数				
		増減数	増減率	増減数	増減率	増減数	増減率			
北海道	23	509	△ 3	△ 0.5	5,223	195	3.8	470,277	204	0.0
東北	27	486	△ 2	△ 0.4	5,487	132	2.4	629,328	509	0.0
東京	23	935	2	0.2	19,314	343	1.8	1,521,853	△ 7,362	△ 0.4
関東	49	1,376	△ 5	△ 0.3	22,323	466	2.1	1,818,640	△ 438	△ 0.0
北陸	17	313	△ 3	△ 0.9	3,703	25	0.6	311,251	△ 291	△ 0.0
東海	39	1,369	△ 1	△ 0.0	22,751	467	2.0	1,630,167	3,761	0.2
近畿	29	1,210	△ 1	△ 0.0	21,278	475	2.2	1,478,354	△ 4,752	△ 0.3
中国	21	484	△ 2	△ 0.4	6,361	168	2.7	565,813	21	0.0
四国	10	207	0	0.0	2,259	84	3.8	217,151	668	0.3
九州北部	13	211	1	0.4	2,638	83	3.2	215,932	577	0.2
南九州	15	316	△ 2	△ 0.6	3,481	87	2.5	391,532	678	0.1
合計	267	7,435	△ 16	△ 0.2	115,063	2,538	2.2	9,276,165	△ 6,533	△ 0.0

（備考） 1. 増減数、増減率は2014年度上期中

2. 沖縄は合計に含む。

以上

（間下 聡）

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。また当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこのレポートは作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

信金中央金庫地域・中小企業研究所 活動状況
(2014年9月末現在)

○レポート等の発行状況 (2014年9月実績)

発行日	分類	通巻	タイトル
14.9.1	内外金利・為替見通し	26-6	14年度の日本経済は、減速しつつも回復基調を維持
14.9.1	ニュース&トピックス	26-33	信用金庫の店舗数の動向
14.9.1	ニュース&トピックス	26-34	信用金庫の常勤役職員数の動向
14.9.1	ニュース&トピックス	26-35	信用金庫の出資会員数の動向
14.9.5	ニュース&トピックス	26-36	中国の戸籍制度改革とその経済効果
14.9.10	内外経済・金融動向	26-1	地域別にみた日本経済の景況判断 ～増税後の落込みは一過性で、景気は緩やかに持ち直し～
14.9.19	ニュース&トピックス	26-37	信用金庫の貸出金利回りの動向
14.9.19	ニュース&トピックス	26-38	信用金庫の経費の動向
14.9.25	地域調査情報	26-2	地元商店街の活性化に向けた信用金庫の役割 ～「カネ・チエ」だけではなく「ヒト」という課題への対応
14.9.30	産業企業情報	26-3	IT利活用が中小企業にもたらすものは② ～中小製造業のIT利活用～
14.9.30	産業企業情報	26-4	新たな産業創出が期待されるバイオマス産業都市 ～バイオマスを軸とした地域循環型社会の形成～

○講演等の実施状況 (2014年9月実績)

実施日	講演タイトル	主催	講演者等
14.9.5	環境変化に挑む！中小企業の経営事例	島田信用金庫（榛原支店、相良支店、牧の原支店、榛原東支店）	鉢嶺実
14.9.11	環境変化に挑む！中小企業の経営事例	留萌信用金庫	鉢嶺実
14.9.12	日本および世界の経済情勢と為替相場の展望	大川信用金庫	角田匠
14.9.12	日本経済の現状と今後の見通し	宮崎信用金庫	斎藤大紀
14.9.13	地域資源を活用した創業を考える	しののめ信用金庫	鉢嶺実
14.9.16	環境変化に挑む！中小企業の経営事例	城南信用金庫	鉢嶺実
14.9.18	「老舗」の経営が示唆するものは何か	高崎信用金庫	鉢嶺実
14.9.19	IT利活用と中小企業経営	尼崎信用金庫	薬品和寿
14.9.25	今後の経済見通しについて	北群馬信用金庫	角田匠
14.9.27	①医療・介護業界の動向と堅調経営を続ける介護事業者の事例 ②中小ものづくり企業の挑戦	八幡信用金庫	鉢嶺実

○統計データの公表、レポート等の発刊予定 (公表日等は変更となることがあります。)

14.10.1	内外金利・為替見通し (月刊) <26-7>
14.10.16	全国信用金庫預金・貸出金 (2014年9月末)
14.10.中旬	産業企業情報<26-5>企業間・産学等の「連携」で目指す中小企業のイノベーション
14.10.31	全国信用金庫主要勘定 (2014年9月末)
14.10.下旬	産業企業情報<26-6>中小企業における「成長戦略」への期待について (仮)
14.11.4	内外金利・為替見通し (月刊) <26-8>

<信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号
 TEL 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX 03-3278-7048
 e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp
 URL <http://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)
<http://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)